

国立病院機構仙台医療センター「ドクターヘリ」職員向け説明会を開催

宮城県が仙台市宮城野原地区で整備を進めている「広域防災拠点」において、救急医療用ヘリコプター（以下、ドクターヘリ）の拠点が完成し、県の基幹災害病院である国立病院機構仙台医療センター（田所慶一院長 病床数698床）では、10月28日の就航を前に、12日（水）に職員向け「ドクターヘリ説明会」を開催する。

- 時間：午前9時より午前10時頃まで
- 会場：仙台市宮城野区宮城野2丁目11-6
（仙台医療センター ドクターヘリ格納庫）
- 内容：仙台医療センター職員向けにドクターヘリ見学
装備品の概要説明、ヘリ搭載の「映像伝送システム」（注）の端末使用など



（注）映像伝送システムとは、ドクターヘリとセンター救急部門（手術室を含む）間でリアルタイムに映像が伝送でき、病院側スタッフは到着する救急患者の映像を見ながら治療や緊急手術に備えることができる。



これまでも仙台医療センターでは、ドクターヘリの運行準備に向けて、フライトドクターやナースを始め病院関係スタッフが入念な打ち合わせや訓練を重ねてきた。

運航を1ヶ月後に控えた9月14日には、仙台医療センターでは職員を対象とした「ドクターヘリ院内説明会」を開催。同センター山田康雄救命救急部長から、東日本大震災で学んだ経験を活かし、救急医療スタッフや関係者とともに準備を進めてきたことや自らも県外の救急医療の現場でドクターヘリの経験を重ね、フライトナースについては、福島県立医科大学救急部で訓練を重ね準備をしてきた様子など話された。

また、ドクターヘリに新たに装備する医療機器や備品について、購入を担当した事務部企画課長は「数多くの医療機器や関係備品を予定どおり購入し、配置することが出来た。一刻を争う救急患者の命を一人でも多く救ってほしい」と期待を寄せている。

仙台医療センター田所慶一病院長は、ドクターヘリについて「運航開始により患者さんへの不利益にならぬようしっかり準備を進めてきた。地域住民や県民から大きな信頼が寄せられるようしっかりと取り組んでいきたい」と語っている。

【広域防災拠点】とは
大規模災害発生時に、ヘリコプターを含め大規模な支援部隊の集結場所や全国からの支援物資の集積場所となるほか、災害医療活動の拠点になるなど、全県をカバーする高次の防災拠点としての役割を担います。

《照会先》

国立病院機構 北海道東北グループ （人事専門職）大坂

住 所 宮城県仙台市宮城野区宮城野2-8-8

TEL 022-291-0411 携帯（090）2813-3454

メール y-osaka@hosp. go. jp